学校だより　1月号

石川小学校　学校教育目標
育てます。「 石川魂 」

令和４年１月11日
横浜市立石川小学校
校長　寺園　淳

あけましておめでとうございます

校長　寺園　淳

令和４年元旦。私は自宅近くの高台に毎年、初日の出を見に行きます。そこは近隣の住民にとって「初日の出スポット」になっており、今年も多くの人が集まっていました。すると間もなく温かい日差しとともに太陽が昇ってきました。今年の初日の出は私がここ数年見る中で、一番の力強さを感じ、明るい気持ちになりました。新年、明けましておめでとうございます。一昨年から続くコロナ禍により様々な教育活動が制限されていましたが、保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力により、石川小学校の子どもたちは明るく、健やかに学校生活を過ごすことができました。改めて感謝申し上げます。

正月のもう一つの私のルーティーンは箱根駅伝を応援（テレビ観戦ですが）することです。２日間テレビの前に陣取り、選手一人ひとりの頑張る姿に感動を受けながらその行方を見守ります。今年は２年ぶりの青山学院大学の総合優勝でその幕を閉じました。襷をつないでいく青山の選手たちに共通していた姿がありました。それは笑顔です。原晋監督はレース中も盛んに「笑顔」を強調していました。笑顔には脳の働きを活性化したり、緊張をほぐすことで筋肉のパフォーマンスを引き出したりする働きがあるそうです。その原監督のレース後のインタビューでの言葉に、私は共感を覚えるものがありました。

その一つが、選手一人ひとりが自分で考えてレースを組み立てるように、選手を育てているという事です。レースは相手の実力、自己の体調、天候など様々な要因によって左右されます。その都度監督からの指示を待っていたのでは、勝負を仕掛けるタイミングを逸してしまいます。選手が自ら判断し、行動できたことが今年の優勝に結びついたのだそうです。この力は、石川小学校の子どもたちに一番身に付けてほしい力です。石川魂の具現化にはこの主体性が必要です。そのためにも私たち教職員が決して押し付けではなく、子どもの学びを見守る、支援する姿勢を大切にしなければならないと考えます。もう一つは「判断に迷ったときには、攻める」という言葉です。コロナ禍により教育活動を慎重に進めなければならないことは当然ですが、石川小学校の方針としてこれまで同様、できる限りの体験や学びに積極的に取り組ませていきたいと考えます。子どもたちが体験や学びの場で、満足するまで取り組んだ時に見せる笑顔は最高の輝きを放っています。どのようにすれば子どもたちに価値ある学びを保障できるか、教職員一同、研鑽を重ねてまいります。

今年の初日のように輝く石川小の子どもたちのために、保護者の皆様、地域の皆様、どうぞお力添えをお願いいたします。